

4/4 時廣書記長解雇撤回 労働委員会闘争報告

「青年の悔しさを背負って闘い、勝利する」 — 時廣書記長、JR・環境アクセスを弾劾！



労働委員会闘争を終わって仲間とともに。(横浜市Lプラザで)

4月4日、時廣書記長解雇撤回・非正規職撤廃の労働委員会闘争は、20人を与える仲間の結集で、中村委員長、時廣書記長の証人尋問をかちとりしました。二人は、JRと東日本環境アクセスが行った不当労働行為を徹底弾劾。怒りと労働者の誇りを持った証言はJRとアクセスを終始圧倒しました。

①環境アクセスは、組合員であるが故に、時廣書記長の「退職意志の撤回」文書を確認せず、職場から排除したこと。
②環境アクセスは、時廣書記長を組合員であるが故に、パート社員から契約社員への転換をしなかったこと。
③以上は、JRと環境アクセスが行った不当労働行為であること。

2人の証言は、以上の点を鮮明に明らかにし、JRと環境アクセスに打撃を与えました。次回は、5月16日です。桑原副委員長と飯田修環境アクセス小田原事業所所長です。さらに、JRとアクセスを徹底的に弾劾し、時廣書記長解雇撤回を勝ち取りましょう。働く仲間の皆さん。是非、労働委員会に集まってください。ともに闘い勝利しましょう。

解雇撤回勝ち取り、職場に戻ります！

— 労働委員会での証言から — 時廣書記長

解雇を撤回し職場に戻すことは当然だが、しかしパート社員で戻ってもパート社員の賃金では生活できません。だからなんとか生活することが出来る契約社員として職場に戻りたい。

パート社員の賃金は、手取りで13万円。

母親と2人暮らしで、母親の遺族年金と合わせても生活はとても苦しかった。最初はパート社員でも、半年位で契約社員になれて何とか生活していけると思っていました。でも1年7ヶ月もパートのままで生活はとても苦しくなりました。

パート社員と契約社員は、仕事と労働時間に違いはありません。でも賃金は契約社員は手取り17万円。盆と暮れには一時金もありますが、パート社員にはほとんどありません。

JR東日本は「清掃は下」と位置づけられている。でも自分は清掃の仕事に誇りを持っている。だから解雇撤回をかちとり、職場の仲間とともに清掃の仕事をしたい。列車や駅の清掃があつてはじめて、乗客が快適に移動できるし、列車が安全に運行できる。

会社に団交や申し入れ、所長にも契約社員にするように何度も訴えたが、会社は自分の切実な訴えを聞こうとしなかった。それで絶望して退職すると言ってしまった。退職を申し出たが、自分の気持ちはスッキリしなかった。そのときに組合の仲間から激励を受けました。職場では自分と同じ悩みをもって次々と仲間が辞めているという現実があつた。自分ひ

今の社会こうやって多くの非正規の青年が解雇になって悔しい思いをしている。同じような目にあっている多くの青年労働者の悔しさを背負ってトコトン闘って解雇撤回をかちとり職場に戻ります。

労働委員会に集まろう！

△ 5月16日(水) 午後1時30分から
証人：桑原動労神奈川副委員長
飯田修環境アクセス小田原事業所所長
＜神奈川県労働委員会＞
横浜市中区寿町1-4 かながわ労働プラザ6階

解雇を撤回させ、人間らしく生活できる賃金を勝ち取ろう！ひとりの雇止めも許さない！

時廣解雇撤回！ 非正規職撤廃！

5月16日（水）午後1時30分 労働委員会

JRとJR関連会社で働く仲間のみなさん、毎日の仕事ご苦勞さまで。

「時廣書記長の解雇を撤回し、契約社員として職場に戻せ」と闘っている労働委員会闘争は山場を迎えました。

4月4日、当該の時廣書記長と中村委員長の証人尋問を堂々とかちとりました。東日本環境アクセスにおいて、桑原副委員長をはじめ多くの仲間の無期契約転換をかちとりました。この力をバネに、時廣書記長の解雇撤回・非正規職撤廃をかちとり

ます。

JRは、第3の分割民営化といわれる大攻撃を始めています。運転や駅を含めたすべての業務を外注化し、また廃線を押し進めそこに暮らす住民の生活を破壊しようとしています。安倍政権は、改憲と朝鮮侵略戦争、労働法制改悪に突き進んでいます。

こうした攻撃と真つ向から闘う労働組合が職場に必要です。動労総連合は、絶対反対を貫き労働者の団結を大事にして闘っています。とくに青年労働者の

みなさん、動労神奈川に加入し団結してともに闘いましょう。

5月16日、労働委員会に結集しよう

5月16日は、桑原副委員長の証人尋問が行われます。

JR東日本と環境アクセスが一体であることを、職場での作業を通して具体的に明らかにしていきます。時廣書記長をはじめとする労働者に対する解雇や人間らしく生活できない低賃金の元凶はJR東日本です。

時廣書記長解雇撤回・非正規職撤廃の労働委員会闘争は、JR東日本がいま開始している第3の分割・民営化攻撃、分社化・外注化、すべての労働者の非正規化と真つ向から対決して打ち破っていく闘いです。

職場で絶対反対で闘う労働運動こそ、安倍政権の改憲・戦争を打ち破っていく土台となります。

仲間のみなさん、ぜひ結集してください。団結してともに闘いましょう。

JRと環境アクセスは一体

—労働委員会での証言から—

中村委員長

桑原君や時廣君と初めて会ったとき、JRは何故このように実直で真面目な青年を辞めさせようとするのかと思った。国鉄分割・民営化で20万人が職場を去り、200人の労働者が命を絶った。JRは国鉄分割・民営化と同じことをやろうとしている、もうあんなことを再び許してはいけない。

私は40年以上国労の組合員として活動してきましたが、いまの国労では労働者の権利は守れないと思ひ、国労と決別し、動労神奈川の委員長を引き受けま

した。

2015年3月、桑原組合員への雇止め・解雇を24時間ストライキを闘い、解雇を撤回させた。労働者が労働組合で団結して闘うことで初めて、資本の奴隷から労働者としての誇りを取り戻すことができることを実感しました。

動労神奈川は、パート社員や契約社員の状況を知って、このような非正規職のあり方は、廃止させなければならないと議論してきました。それで「全員を正社員にしろ」「希望するパー

トは全員契約社員にしろ」とJRと環境アクセスに要求して闘ってきました。

解雇自由、家族が生きていけない低賃金、長時間労働、不安定雇用、ダブルジョブ等、そんな社会のあり方を変えていくためにも、この時廣解雇撤回闘争は重要です。

JR東日本は、グループ経営が基本。列車の運転、駅業務、検査・修繕、保線、電気、通信、そして列車や駅構内の清掃、それぞれが有機的に結合し、共同協働によって列車が運行されて



いる。

労働者は労働組合があるから闘うことができる。当たり前のことか実現できる社会に変えていこうと思っています。